



第一部

日野のランドデザイン

序章	第I章	第II章	第III章	第IV章	第V章	第VI章
----	-----	------	-------	------	-----	------

I-1 まちづくりマスタープランの位置づけと役割

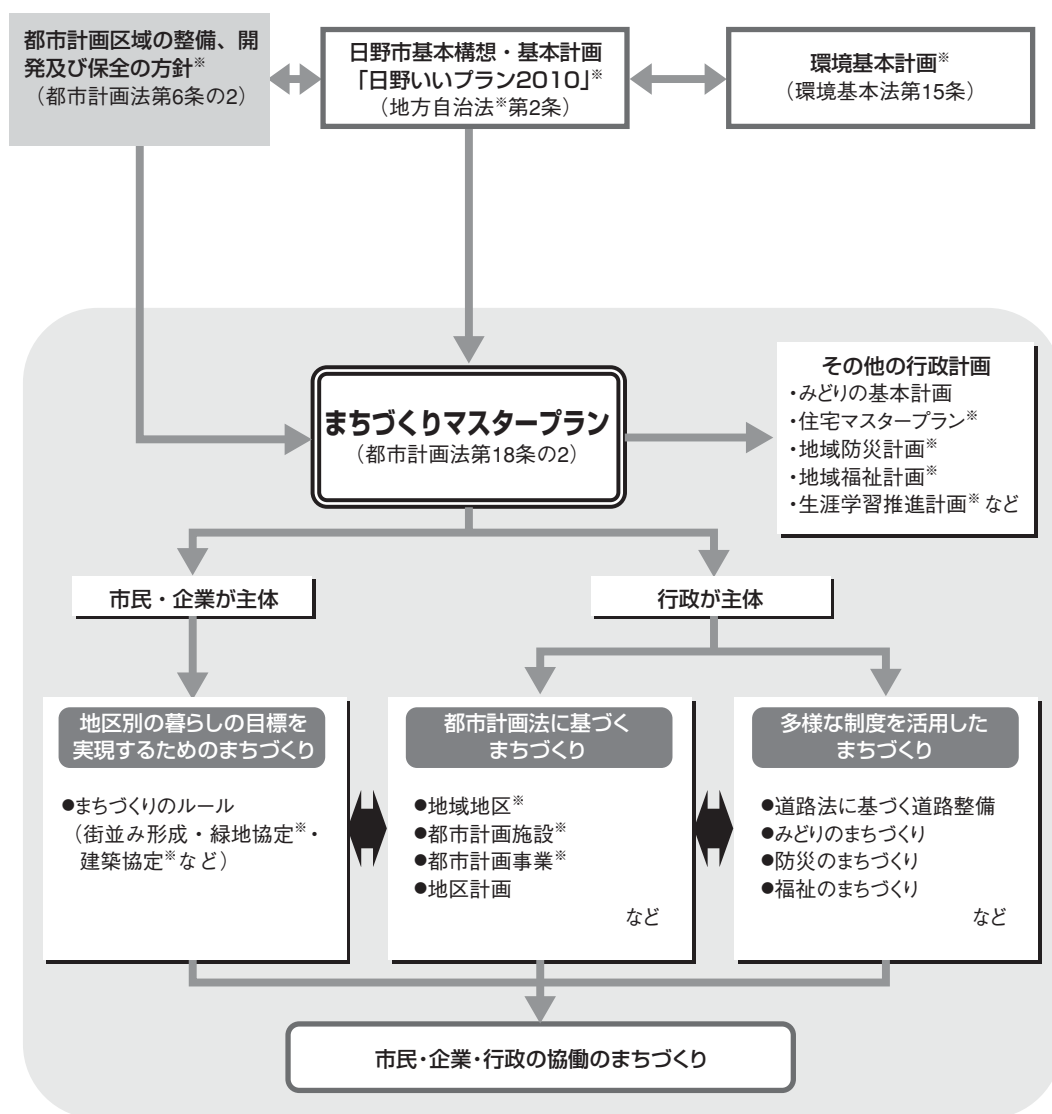
1. まちづくりマスタープランの位置づけと役割

これまでの都市計画マスタープランは、都市計画法の枠組みの中に位置づけられ、その中で行われる計画や事業のみを対象としており、市民のさまざまなニーズへの対応が十分ではありませんでした。

そこで、市民のまちづくりに対する多様なニーズに対応するため、日野においては、まちづくりマスタープランが、日野のまちづくりを定義・実現するマスタープランとしての役割を担っていくこととします。

いわば、このまちづくりマスタープランは日野のまちづくりの羅針盤と言えます。

具体的には、用途地域の見直しや、本計画に位置づけられている都市計画に関する事業を展開していく基本的な方針となるものであり、また、個別具体の施策を実行するときの手がかりとしても使われていくことになります。また、行政内では、都市計画に関する事業の予算化の指針ともなります。



まちづくりマスタープランの位置づけ

※都市計画区域の整備、開発及び保全の方針
 ※日野市基本構想・基本計画「日野いいプラン2010」
 ※地方自治法
 ※環境基本計画
 ※住宅マスタープラン

※地域防災計画
 ※地域福祉計画
 ※生涯学習推進計画
 ※緑地協定
 ※建築協定

※地域地区
 ※都市計画施設
 ※都市計画事業

2. 計画策定の経緯と体制

1) 計画策定体制

(1) 市民まちづくり会議（通称：まち会）

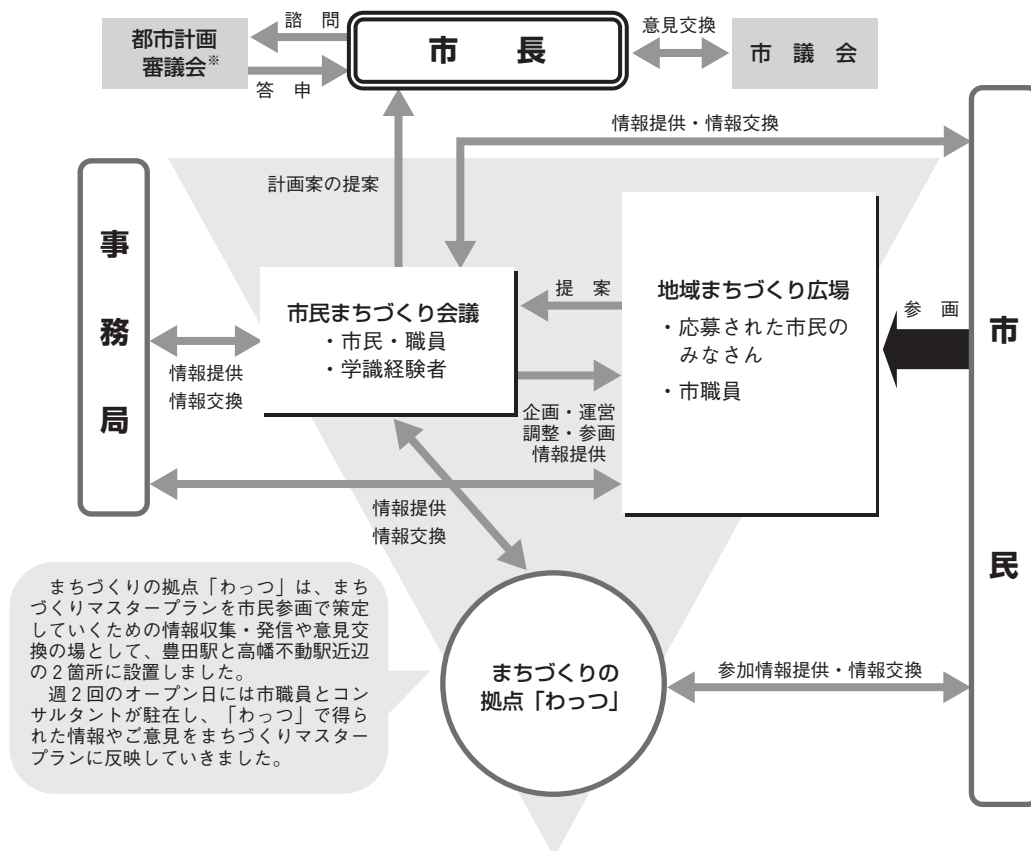
作品発表会で選ばれた市民14名、職員の有志6名、学識経験者2名の計22名で構成され、市民参画によるまちづくりマスタープランづくりに関する企画・運営・調整などを行う中心的な組織です。

また、地域まちづくり広場で作成された地域別のまちづくり計画（地域別構想）の素案をとりまとめ、日野市全体のまちづくり案（全体構想案）として、市長へ提案しました。

(2) 地域まちづくり広場（通称：まち広）

地域の要請をきめ細かに反映した地域別構想を作成するために、日野を8地域に区分し、誰もが自由に参加できるよう公募により集まった総勢86名の組織です。

ここでは、地域の「誇り」や「自慢」となっているもの、「問題となっているところ」などを見つけだし、「どのようにしたら『誇り』や『自慢』となっているまちの資源を保全し、活かしていくことができるのか」、「問題となっているところは、どのように改善したらよいのか」ということを参加者全員で考え、地域別構想の素案をつくりあげました。



まちづくりマスタープランの策定体制

※都市計画審議会

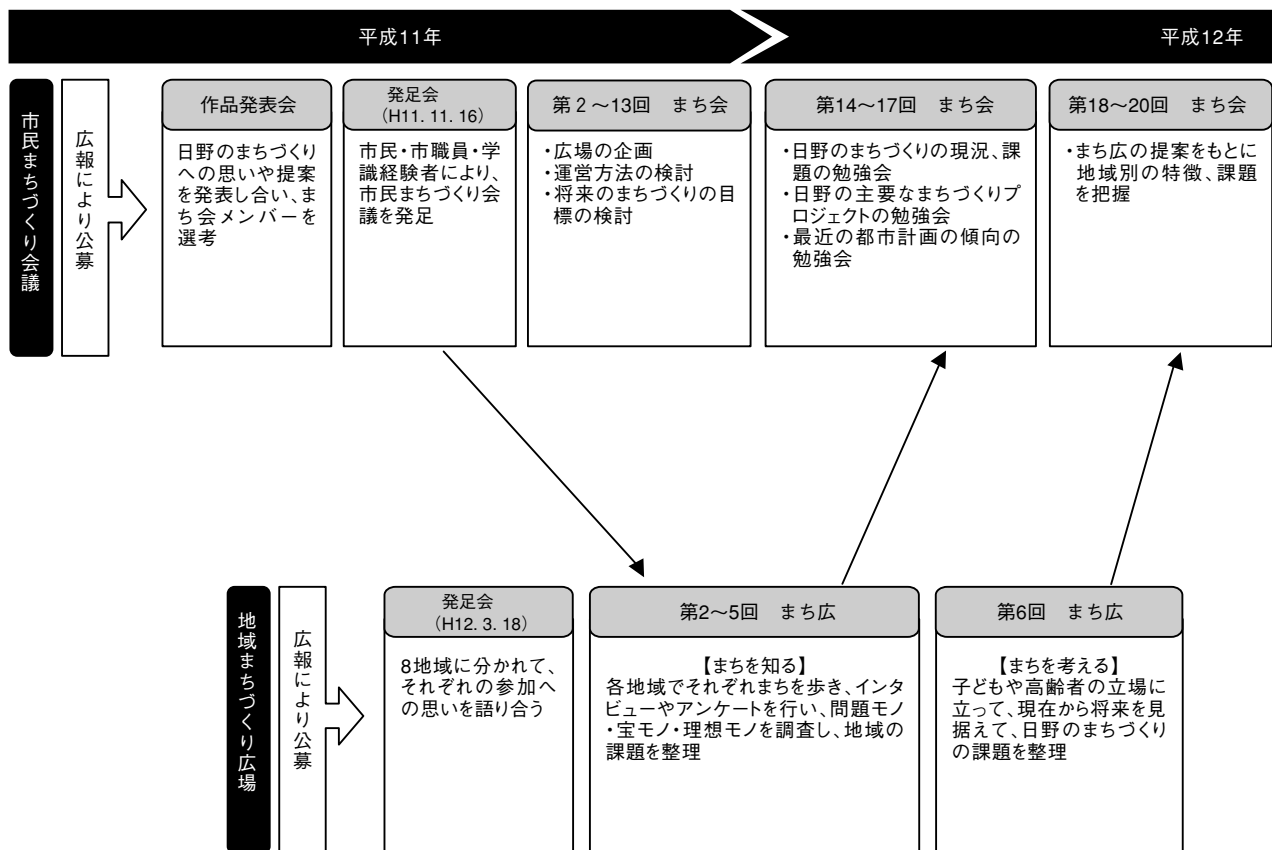
Ⅰ-1 まちづくりマスタープランの位置づけと役割

1) 計画策定の経緯

地域まちづくり広場では、【まちを知る】【まちを考える】【まちをデザインする】の3つのステップを踏み、地域の将来像を描きました。その後、【実現化方策を考える】ステップでは、将来像を実現するために必要なまちづくり事業を整理しました。

市民まちづくり会議では、地域まちづくり広場で検討した地域別の提案をもとに日野市全体の構想を練り上げました。

まちづくりマスタープランの策定経緯



地域まちづくり広場



市民まちづくり会議

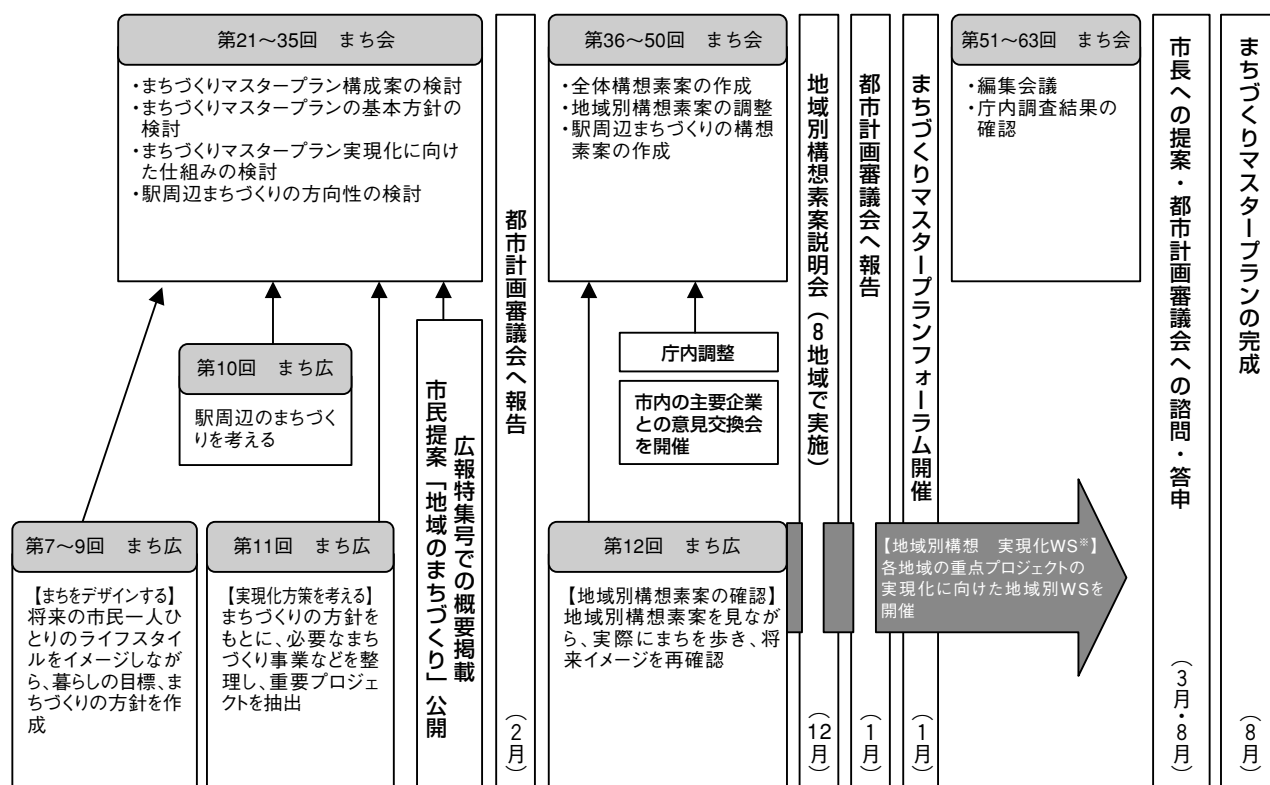


平成12年

平成13年

平成14年

平成15年



※WS（ワークショップ）

I-2 計画の将来想定人口と目標年次

1. 第4次 日野市基本構想・基本計画における人口フレーム

将来の人口は、これからのまちづくりをどう進めていくかを考える上で、大きな要因となります。

急速な少子・高齢社会の到来や東京への人口集中が収まりを見せる中、日野市では人口増の地域、人口減の地域両側面を持ちながら、全体として人口は微増しています。

日野市の基本構想・基本計画である「日野い

いプラン2010とともに創りあげるまち」においては、日野市がいきいきと活動するまちとして発展していくために、より積極的に、人口のあり方に働きかけるまちづくりが必要であるとして、これまでの傾向を延長した趨勢人口に、計画的な市街地の整備などで積極的に誘導する人口を勘案して、2010年時点で、185,000人としています。

2. 本計画における計画の将来想定人口と目標年次

本計画における目標年次は、平成12年を基準年次として、20年後の平成32年を目標年次とします。

ここで、本計画における計画の将来想定人口は、少子高齢社会の到来を勘案すると、2010年以降

の大幅な人口増は望めないことや、安定した住宅市街地環境を確保する観点から、平成32年の将来想定人口は、185,000人とします。



絵 山本 由美子